

「結局最後は憐れみ深い」

敦賀って良いところだなあ、と最近改めて思いました。と言うのも、この夏、もう 10 回くらい海に行って遊んできました。いや、もともと敦賀生まれであれば、海に遊びに行くというのは、別に有難くもなんともないのかも知れません。沖縄育ちの私の妻にしても、海遊びなんて学校帰りの恒例行事みたいなものだったらしいですし、珍しいものじゃないと言っていました。でも、私は、岡山県の山育ちで、毎年海水浴に行けるのは、1 回か 2 回でした。しかも、遠路片道 2 時間くらいかけて海まで行くわけです。で、駐車料金払って、暑い中、駐車場から海まで歩いて、帰る時にもわざわざお金を払って冷たいシャワーを浴びて帰ってくるわけです。かたや、ここでは、夕方 5 時に気比の松原へ行きますと、駐車場は無料で、歩けばすぐに海に入れます。この海水浴場は、浅瀬が少ないので、ちょっと子ども達には危ないところもありますが、場所を選べば、3 歳の子どもでも楽しく遊べます。片道 10 分程度で、別に帰り際にシャワーを浴びなくても、帰ってすぐにお風呂に入れば済むことです。それって、とても幸せなことだなあ、と、山育ちの私としては思うわけです。気軽に海に行けるって、いいですよ。という幸せを噛みしめながら、6 回ほど気比の松原の海水浴場に行き、あとの 4 回は、敦賀セメントの採石場がある近くの小さな海岸で、貝殻拾いをしたり、生き物観察をしたりして遊びました。シタダミという小さな巻貝や、その巻貝の殻に入ったヤドカリや、びっくりしたのは、結構な大きさのワタリガニも、そこにはいました。漁業権という言葉が脳裏を過るので、決して無茶なことはしませんが、食べたら美味しいんだろうなあ、という海の恵みが、敦賀には普通に沢山ありますよね。ここって、良い街だと思います。

とまあ、そんな風に、今年は、コロナ禍の 5 類引き下げということもあって、とくに海辺の遊び

を楽しんでいるわけですが、こう、ポーっと波の動きを眺めているだけでも、なんか飽きないですよ、不思議と。寄せては返す、という単調な動きなんだけれども、波の泡立ちとか、運ばれてくる石や砂とか、あとは波の音もそうですね、不思議といつまでも眺めていられる魅力があります。風の流れと、月の引力によって、浜辺の波の様子は変わっていきます。その「寄せては返す」という繰り返しは、この地球に海が出来た時から、ずっと続いているのかと思うと、それもまた、味わい深いものがあります。

私の父は、浜辺でカニを見つけて、「このカニは自分の生きる意味なんて考えてないんだろうなあ」と、感慨深く思ったそうですが、私も私で、浜辺に打ち寄せる波を見ながら、今日の聖書箇所のことを思い出しました。今日の聖書箇所と言いますか、今日の聖書箇所に書かれているような、人間と神様の関係性ですね。人間って、「寄せては返す波のように」、神様との距離を縮めたり、伸ばしたり、近づいたり、離れたり。大声で救いを求めたり、傲慢になって背を向けたり。聞き従ったり、頑なになったり。ずーっと昔から続けて来たんだなあ、と。確かな信仰を持つことが、人生を安定させ、平穏を得られる方法だと知りながら、たぶん誰も、一度も、信仰の水面がピタッと落ち着いたことってないんじゃないか、と思います。時に、激しく神様を求めて波が打ち寄せ、時に、神様からスーッと離れて波が引いて行く。そんな「寄せては返す」ということの繰り返しを、大昔から私たち信仰者は続けてきたのだと思わされます。

でも、神様の方は、私たちの信仰の波打ち際に立って、一步も動かず、いつも私たちの方を見つめて、待ってくださっているんですよ。私たちが、神様から心を離して立ち去る時も、明らかに神様のことを傷付け、悲しませるようなことをする時も、神様は、忍耐し、聖霊を送り、私たちを励ましてくださっている。私たちに見限りをつけ、滅ぼすなんてことはなさらずに、まことに憐れみ深い神様は、私たちを見捨てようとはなさらないんだ、と。私たちの神様は、まことに恵みに満

ち、憐れみ深い神様です。

古代ギリシャ哲学において、神という存在は「不動の動者（ふどうのどうしゃ）」と言われていました。アリストテレスが考え出した言葉です。この「不動の動者」とは、「自分は不動のものであって、何かに影響されたり、指示されたり、動かされたりはしないが、自分以外のすべての事や物を支配し、影響を与え、動かす」という、そんな存在のことです。自分は動かないけど、周りを好きなように動かす、と。このアリストテレスの考えた「不動の動者」という哲学思想は、中世ヨーロッパにおいてトマス・アクィナスという神学者によって取り上げられ、キリスト教神学にも大きな影響を与えました。だから、私たちが信じている神様にも、この「不動の動者」と呼ばれる側面がある、ということです。私たちの神様って、自分じゃ動かないけど、でも、自分の創り出した被造物を、好きなように動かします。海も、川も、山も、空も、神様の思い通りであり、そして、私たち人間も、神様の御心のままに生まれては、死んでいきます。

でも、なんか、それって神様に完全コントロールされているような、神様の好き勝手に生かされているような、なんか感じが悪い、と思えなくもありません。実際、宗教に抵抗のある人たちって、そういう自分以外の存在によって、自分が制御されてしまうことに、拒否感も持っているんだと思います。良く分からない教義や戒律によって、自由が阻害されているんじゃないか、と。もっとストレートな言い方をすれば、宗教を信じるなんて、それは洗脳されているってことなんじゃないか、と。

でも、今日の聖書箇所なんかを読みますと、これって完全に神様は洗脳に失敗してますよね。直接、神様が失敗しているんじゃないにしても、神様のことを信じて一生懸命に努力してきた、指導者や預言者たちというのは、洗脳どころか、普通一般の遵法精神さえ定着させることが出来ていないような感じですか。確かに宗教には、合理的な理屈を超えて、無理やりに信じ込ませる、無理や

りに信じ込むという側面がないわけじゃないですが、でも、大昔から基本的に人間は、神様の御前において、宗教的な社会制度の中で、わりと好き勝手に自由に生きてきたのです。「神様のために、あしなさい、こうしなさい」と言われつつ、でも、その約束事や決まり事を徹頭徹尾、完璧に守り抜いた、言い換えれば、完璧に洗脳された信仰者は、いなかったのです。今も、昔も、神様の御言葉や御心を教えられつつ、でも、傲慢になり、耳を貸さず、法に背いて、かたくなになり、聞き従うことは、稀だった、珍しかった。それが、聖書が伝える、ありのままの信仰者の姿です。

私たちの神様は、「不動の動者」として、自分は動かずに、周りを好き勝手に動かすという風に見えて、その実、私たちは神様の思う通りには動いていません。動けていません。良くも悪くも自由であり、洗脳なんていうのは、はるか遠い話です。神様が天地万物を創造し、遍く支配されるということに間違いはありませんが、でも、私たち人間存在に対して、神様は、そういう束縛や強制はされないのです。神様は、そういう束縛や強制はせずに、ただ待ってくださっている。「長い年月、忍耐し、霊を送り、預言者によって」御言葉を届けてきた。その立ち振る舞いに関しては、「不動」という言葉がぴったりです。神様は「動かない」。私たちが神様から離れ去っても、神様は、そこから動かずに、私たちが帰ってくるのをじっと待ってくださっている。また、神様の方から、私たちが遠ざけて、離れ去られることもない。神様は動かない。私たちが「寄せては返す」という不安定な信仰によって日々を過ごすとしても、神様は、いつも同じ場所において、いつも見守ってくださっている。私たちがいつでも、立ち帰って安らげるように、いつでも安心して寄り掛かれるように、神様は愛と憐れみをもって、私たちの隣に立ち続けてくださっているのです。

聖書を読みますと、怒る神様、叱る神様、罰を下す神様などなど、厳しい態度であり、また非常に能動的に・・・、言い換えるなら、なんと申しますか、荒ぶるような神様の御姿はたくさん記録されています。けれど、「結局最後は憐れみ深い」のです。私たちが立ち帰るまで忍耐し、痛

みを堪えて、私たちのために恵みを絶やさず、ご用意してくださっている。そんな神様の御姿があります。だから、私たちは、感謝して、今日も讃美歌を歌い、献金をします。物心両面において感謝の気持ちを表すのです。私たちが波のように不確かで移ろいやすい信仰を持つとしても、そんな私たちを愛し、励ましてくださる神様に、今週 1 週間も、十分に信頼を置いて歩いて参りましょう。

お祈りを致します。

神さま。

今日も私たちを、この礼拝堂に招いてくださり、ありがとうございます。また、週の一巡りに安息日を定めて、私たちに休息と安らぎの時を与えてくださり、感謝致します。あなたは、長い歴史において、様々な罪と背きをご覧になり、耐えがたい反逆や裏切りに御心を焼かれながらも、なお、信じる人々を愛して、憐れみを忘れず、今日まで主の教会と、そこに集う私たちを守り、導いてくださいました。まさに、あなたは憐れみ深い方であります。どうか、神様、これからも、私たちの行く道を見守り、いついかなる時も、私たちに恵みと祝福を注いで、主の民としての誉れをお与えください。あなたに深く愛されていることを知って、ますます私たちが、感謝と賛美の祈りを捧げることができますように、どうか、私たちの信仰の歩みを強めてください。また、あなたに愛され、赦されていることを知るからこそ、私たちも隣人に対して、寛容な心と慈しみを持ち続けることができますように。私たちの心を優しさで満たし、キリストの良き肢として歩ませてください。

この祈りを、我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。